

第2回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：平成27年1月22日（木）

午後1時30分～

場所：消防本部3階 大会議室

1 開会

2 挨拶

○栗原市総合計画審議会 会長

協議案件は市民満足度調査についてだが、市民が市政に対してどれだけ満足しているか知りたいということである。このアンケートから得られた情報をベースにしながら総合計画を作成されたいので、審議をよろしくお願いしたい。

3 協議事項

(1) 市民満足度調査（総合計画に関する市民アンケート）案について

(議長)

質問項目が多い、非常にボリュームのある調査である。ひとつずつ記入しなければならないので、市民の皆様には大変お手を煩わせるわけであるが。

本日は、アンケートの文言も含めて協議いただきたい。

(委員)

回答は選択肢5段階で、そのうち「5、わからない」とある。「わからない」という回答を抽出して、政策に反映させられる何かがあるか。また、選択肢に「ふつう」というのがない点について、どうか。

(事務局)

前回も、この5段階評価でアンケートを実施した。「わからない」という回答は、その施策で行っている事業あるいは施策そのものに対して市民の周知度が低いということで、内部評価の中で判断をさせていただいた。「わからない」に丸があり、その隣の意見欄に「こういう取組をしたほうが良い」と記載があった場合、参考意見として後期計画の施策の中に反映させてきた。

(委員)

それならば、前回アンケートとの比較もあると思うので、回答の選択肢を変えるのは評価上問題があるかもしれない。

(議長)

問6の質問No.1では、「中山間地の直接支払」について、商工業者の方は「わからない」に丸を付けるかもしれない。全般に知っているのは、意識的に総合計画を議論しておかないと、なかなかフォローできないかもしれない。自分たちの生活に直接関わる事なので、知った方が良いというのは間違いない。

回答の選択肢に中位値「ふつう」がないことについて、事務局の考えは。

(事務局)

「ふつう」というのは想定していなかったが、委員の皆様から6段階にした方が良いという意見があれば、「ふつう」という項目を追加したい。

(議長)

書く側としては、わからない時に「ふつう」と回答することもある。前回との整合性を持たせるという意味でも、実質的には4段階評価でやってみたいということ。

(事務局)

前回アンケートでも「ふつう」という項目を入れるかどうか議論があった。前回は、「ふつう」という項目を設けるとそこに回答が集中してしまうのではないかと、という意見があった。このような経過があるので、それも加味しながら、委員の皆様から意見をいただきたい。

(委員)

総合計画をご存じですかという質問項目があり、「計画の内容を知っている」「計画があることは知っている」「知らない」という回答項目がある。もし、総合計画そのもの知らない場合は、アンケートにはどのように答えるのか。

(議長)

たぶん、総合計画を知らなくても、公園整備がどうだとかいうことには答えられるような仕組みにはなっているのだろう。普段の生活に関わるような内容。

(委員)

資料2のP3、問6の質問のところで「同封した総合計画概要を御覧ください」とある。概要では、将来像I～VIの大きな項目、さらに3つ、さらに3つと分かれている。アンケートは57の項目があるが、概要のような区切りがない。アンケートも概要と同じように、大きなタイトルが書いてあると分かりやすい。

(委員)

57 も質問があり、回答者は大変だと思う。そして、No.1 で農業関係があり、No.28 でも農業関係があるので、書く人は混乱すると思う。例えば、1 から 5 までは農業関係の施策、その下は社会保障の施策、と分けたらどうか。

(議長)

6つの将来像ごとにアンケート項目をまとめたら良いのではないかと、また、産業は産業というように内容をまとめたら良いのではないかと、ということ。例えば、将来像 I は 9 項目で、アンケートも 9 項目あり、P3～P4 が将来像 I になる。将来像 I の①は「美しい景観の保全」とあるが、その中に中山間地域支援が入っているのは違和感があるかもしれない。

(委員)

包括するので。農業も全て含めた中での環境の保全ということにもなるので。総合計画の具体策を書いているのだと思うが、もう少し噛み砕いて、農業分野に特定されないような書き方を、他の内容も複合させて書けば十分だと思う。それを崩してしまうと、測定がばらけてしまうのも変なので。あくまでも当初の計画の施策に基づいてやって、具体策のところは市民に分かりやすいようにポイントを絞って、中山間のことだけを強調するのではなく、森林の健全な育成なども含めて記載する等、工夫を加えるだけで十分ではないか。

(委員)

アンケートでは、市が目指すまちづくりの将来像について P D C A をやってほしいのだと思う。ということは、この将来像 I ～VI に従ったアンケートを実施したら良いのではないかと。例えば、将来像 I には 3×3 の 9 項目があり、これが×6 なので 54 項目。あれもこれもと欲張らず、I ～VI の中で各 9 項目について市はこういうことをしました、これについて皆さんは知っていますか、知らないですか、知っていれば満足ですか不満ですか、ということをしつかりしていくべきである。と同時に、例えばこの 6 項目のなかで何が皆さんに周知されていて、何が周知できていないのか、そういうところまで分かる。そのような形でやったら良いのではないかと。質問項目はお任せする。

「わからない」という回答は、この項目について知らないのか分からないのか、不明瞭になってしまう。知っていて分からないのか。はっきりしないと。

(議長)

知っているか、知らないかという項目が必要だということ。「わからない」という回答は「判断不能」という感じだから、という意見だが。

(委員)

No.1では「美しい景観を保全」するために、何をしたのか下欄に書かれているが、回答者としては分かりづらい。文章なので見ただけで抵抗を感じるし、単語に目がいってしまうので。文章ではなく、箇条書きで「生産条件が不利な中山間地域の営農活動に対する支援」と区切って、「自然環境の保全」で区切って、というように別項目で示せば分かりやすいのではないか。No.2だと、河川整備とパークゴルフ整備は区切るとか。項目が多いし、全部文章でつながって書いていると分かりにくい。

問5「あなたは栗原市総合計画を御存知ですか」と記載されているが、正しくは「御存じ」と表記するのではないか。問7の自由意見の質問では、「感じていることなどをお聞かせください」となっているが、そのあとに「下の欄に自由にお書きください」という指示があれば分かりやすい。

(委員)

栗原市の人口7万のうちアンケートは統計上3,000人で有効と聞いた。回収率5割として、回答が1,500でもデータは問題ないのか。それとも、精度が高いのは3,000の回答が必要なのか。

(事務局)

前回も同様に3,000人抽出して、有効回答おおむね50%の1,500人の回答であった。統計学上で言えば、これぐらいの市の規模であれば1,000を超えれば信憑性を得られると言われている。前回同様の有効回答を得られれば問題はないと考えている。

(委員)

私たちのところには、いろいろなアンケートがくる。ペーパー1枚のものもあれば10ページにわたるものもある。QUOカード500円とか、物で釣るのが良いかどうかは別にしても。参画する意欲の高い方だけがどうかというのはあるが。提出しない方の事情はあると思うが。本来の趣旨とは違うかもしれないが、インセンティブを与えるというのはどうか。字が多く、ページ数が多くて、ましてや年配の方や市政に関心のない方とか。むしろそのようなところが大切なかもしれないが。回収がスムーズになるような方法が考えられないか。

(議長)

たしかに57項目は、普通の人なら萎えてしまう気がする。集まるかどうか。前回はけっこう集まったはずだが。

(事務局)

前回のアンケートでは、行政区長さんに提出の声掛けをしていただいたことで回収率が上がったので、今回も同じように声掛けをしていただくことを想定している。

(議長)

これは、難しい問題ではある。回収率が非常に低くなると有効性にも反映するし、やっかいなところである。

(委員)

アンケートの趣旨もあるとは思いますが、無作為抽出ということだが、花山地区は高齢化率が高いので問題がある。このアンケートを理解できる人が何人いるか、心配である。「わからない」という回答が多くなった場合に、花山のような山間地帯の意見が取りいれられなくなるような不安もある。高齢者で孫がいない場合は、子どもの問題は自分とは関係がないので、満足度は自分では感じられないので、そのへんもどうか。

(議長)

お年寄りが多い地域では、アンケートにきちんと答えないと、次の施策が自分たちのところに厚くならないのではないかと、強迫観念が出てくるかもしれないので、それに対することを考えなければならないと。

また、個々の施策に対して満足しているか満足していないかもそうだが、もうひとつ上の基本方針のところ、例えば子育て環境はどうかと言ったときに、栗原市はあんまりやっていないと思えば「満足していない」に丸をつけても良いはず。だから、施策は知らないけれど満足していなかったら「満足していない」に丸を付けてもらう、そういうメッセージのほうが良いのではないか。

(委員)

高齢者世帯が多いので、この内容を把握できていない方も多いと思う。満足かどうか質問された場合に、自分が直接関わりあるものに対しては答えることができるが、どう答えて良いかピンとこない部分もあるので、その場合は「わからない」に丸が付くことになる。

(委員)

これから施策をつくっていく上で、アンケート結果にズレが生じていると、施策そのものもずれる危険性がある。そこのあたりをどうカバーするのが課題である。

私が良い方法だと思ったのは、アンケート実施の予告があり、そのあとにアンケート用紙が送られてくる方法。それと、「もう提出しましたか」というようなフォロー。そうすると回収率が上がるのではないかと思う。区長さん方の協力もそうだけれども。

(議長)

事務局もそのへんを考慮していただければと思う。

(委員)

概要の将来像Ⅰはグリーンで色分けされているので、アンケートの該当項目のところにもグリーンにすると、概要と合せて分かりやすいのではないか。前回は回収率 50%ということだが、返信用封筒が同封されていてアンケートを入れて返すという方法は、1ヶ月間の猶予があると、結局は出さないでしまうことがある。区長配布で、途中で声掛けのフォローがあるのは良いと思う。区長さんは大変だが再度声掛けをすとか、回収率を上げるために方法があると思う。

(委員)

この地域では、区長配布・区長回収という方法は一番回収率が高い。ただし、何を書いたか見られたくないという気持ちがあるので、封をして区長に渡すという形で良いのではないかと思う。

アンケートは項目を多くしない方が良い。私の住んでいる地区は高齢者が非常に多く、おそらくこの文言を読むだけで苦勞なさるだろう。何のためにというのは分かっていると思う、将来像なので。だから、市では何のために何々をしているが、皆さんどうでしょうか、というのが今回知りたいこと。色分けをすると印刷料がかかるので、白黒印刷として。より多くの方に出すときには、例えば将来像Ⅰでは「恵まれた自然に包まれた質の高い暮らしのまちを創るために、栗原市では、豊かな自然環境と共生した生活を実現するためにこれをしました。これについて皆さんは知っていますか知らないですか、良いですか悪いですか」というような単純な質問を、項目で多くても 2~3、全部でもせいぜい 20 くらいの質問として、単純なもので良いのではないか。抽出した中で問題点があれば、そこで一步踏み込んでいくというやり方もある。

(委員)

整合性を図るためにも、ご苦勞ではあるが、全ての項目に回答いただいたほうが良いのではないか。項目だてして、ダイジェスト版と連動したほうが良い。色分けや、説明文をアンケートにも記載すとか。取り組んだ事業の実績は、箇条書きが良い。文字が並んでいると拒否反応を示されると思うので、すつき

りとしたほうが良い。施策は「～ます」、「～です」の形だが、取り組んだ事業は「～など」と止まっている。どちらも丁寧な言葉でしめるという方法もある。

P3の施策の4番、クラスター型という言葉について、ダイジェスト版では注釈があるので、アンケート用紙にも同じように注釈が必要ではないか。

取り組んだ事業の実績として文字数が多いところはもう少しすっきりさせて。P4の7番は、実績という言葉が入ったり、入っていないかたりするのを統一したい。P14で「払拭」がひらがな表記、漢字表記が統一されていない。いろいろ書きたいのはわかるが、詳しすぎる。もう少し簡単にしてほしい。

前回の総合計画審議会の古い資料を見てみたところ、アンケート回答として「言葉が分かりにくい」「項目が多すぎる」「抽象的で難しい」というものがあった。行政用語なので仕方がないとは思いますが、体言止めをしないようにして柔らかさを出すという工夫もできるのではないか。「自分に関わる項目しか回答しなかった」という方もいたが、これはこれで良いと思う。「市の取組を知る良い機会になった。これからは関心を持っていきたい」という前向きな意見もあった。全ての方が全部きちんと書くというのは難しい。前回アンケートは52%の高い回収率であるが、今回も回収率を上げるための努力をしていただきたい。

配布と回収の方法は、基本的には区長配布として、区長配布と郵送回収が選べるようにすると良いのではないか。

(委員)

施策とは何だろう、取り組んだ内容とは何だろう、アンケートに書かれている組合せそのものが分からなかった。このへんの説明が必要だと思う。回収率よりも、まず読んでもらうための説明や、パンフレットと連動させるなどの工夫をすると良いのではないか。

(委員)

事業の紹介として写真を入れれば、アンケートに答えやすくなると思う。回収期間は一か月では長いので、1週間や2週間の短期間とした方が良い。

(委員)

このアンケートの評価とは、施策に対する評価なのか、事業に対する評価なのか、はっきりしていない。取り組んだ事業に関しては、賛成もあれば反対もあるので。施策に対しての評価であれば、取り組んだ事業については別項目にまとめれば分かりやすくなると思う。

(議長)

重要な問題である。何を問うているのか、はっきり明示していないので。

(委員)

取り組んだ事業の主なものとして、例えばNo.5 中央大橋のこと等が記載されているが、栗原の広い地域全体を見渡して、どのくらい事業を知っている方がいるのか。外に出ないで過ごしている方、特に老人の方は、こういう事業があるのかも分からないのではないか。NHKの世論調査のような形で、項目を短く文章を組み立てて書いたほうが良い。行動範囲ということで、施策がどれほど進んでいるか分からない方もいると思う。

(委員)

総合計画の概要版は、一部カラー写真があるけれども、これをもとに広く市民に総合計画や各種施策の理解を深めたりするとなると、字が多くて分かりにくい。アンケートには取り組んだ事業も記載されているが、概要版もページを増やして具体的な絵を増やせば、分かりやすいのではないか。同じ内容でも、文字だけで「パークゴルフ場の整備」と言われるよりも。

市ではこのような事業をやっています、と知らせることにもなるので。やった施策に対する評価だけでないと思うので。予算もあるので全部につけることはできないと思うが、絵も増やし、せめて高校生でも分かる程度に丁寧にしたほうが、こちらのねらいとするところも得られるのではないか。

例えば、概要版にもっと写真があり、取り組んだ事業等も記載されていれば、このアンケートと連動させてより分かりやすくなるのではないか。これはアンケート以外にも使うと思うので。

(委員)

アンケートをお願いするのは、地域の人口割か。年代層の割合で出すのか。アンケートの抽出方法はどのようなものか。各地域によっての回答内容の割合とか分かるためにも。アンケート項目で、分かるのも分からないのもあると思うが、正直なデータを出すことが大切である。分からない人が多いのはなぜか、それを今後の課題とするためにも、正直な数字を出した方が良い。市民に分からせていくためにも。

(議長)

対象者の抽出は無作為抽出だが、ベースとするのは人口構成率、年齢別、性別等を考慮しながらということになっているが。

(事務局)

今回は、抽出する際に、市全体の人口構成と地区ごとの人口構成、それから年齢構成、そのへんを考慮して抽出する方法を取っているので、今回も同様に

市全体の構成率に見合ったような抽出の仕方を地区ごとに実施するというのを想定している。

(委員)

取り組んだ事業を記載することによって、逆に市民が戸惑うこともある。P7の23番は、疾病予防等いろんな事業があるはずだが、アンケートでは自殺予防等に特化されて記載されている。施策の「健康増進」との不一致を感じるのではないか。数値的に明示できることを中心に書いて、それが十分だったのか不十分だったのか。市民感覚で「満足」とする人もいると思うし、知らなかったけれどこういうことをやっているのだなと「満足」と評価する人もいると思う。満足度調査なので、ここがずれてしまうと、この調査は正確だったのか、ということにもなってしまう。施策は市としては明記しなければならないと思うが、その場合は注意して、数値的に表現できることをしっかり書いていただきたい。また、なぜその項目なのか、ということ、施策とマッチングさせるような書き方を心がけていただきたい。

(議長)

基本方針と施策が普通の感覚からすると一致しているのかどうかを検証する必要はあるかもしれない。

例えばNo.1では「美しい景観」とあるが、取り組んだ事業として挙げられているのは中山間地域の支援。そういった意味では、この満足度調査は太文字に対して答えるという格好になっているのだと思う。ただ、それだけでは分からないのでというサービス精神で、具体的な内容ことを書いたのだと思う。しかし、回答者は、いっぱい書いているので怯んでしまう。

(委員)

満足度調査をどのレベルで市民に求めるのか、ということ。施策を検証していくのが一番の目的なので行政当局でもこれから検証すると思うが、市民目線で見えた場合という満足度調査であれば、どこまでのレベルを求めていくのか。施策について、農業の人は商業のこと、商業の人は農業のことは分からないこともあり、答えられないこともあると思う。市民感覚での満足度を求めていくのか、それとも施策一つ一つを検証していくのか、どこにポイントを持っているのか、もう少し確かめた方が良いと思う。

(委員)

アンケートの対象者は年齢別、地域別と言っていたが、それは若干ちがうのではないか。年齢別でいうと我々世代が非常に多く、もう終わった人たちの

で、あまり意味がないのではないか。失礼かもしれないけれども。もう少し対象年齢を下げた実施すべきではないか。将来の、10年後の平均年齢とか。アンケートは若い人に、10年後の平均としたらどうか。

「市民が創るくらしたい栗原」とあるが、10年間で1万人減っている。暮らしたくないからではないか。こんなことをやっていたって駄目だというような、アンケート結果は「不満」と出てきそうである。施策は施策、取り組んだことはいっぱいあった、だけど結果的にはこうなった、という話なので。暮らしたくない栗原になっちゃったと。ここにメスを入れるような施策が必要である。

もともと農業が主の地域だが、農業がこういうことなので、人口の減はここがもとだと思う。これをどうにかしようというのは難しい。このままの産業構造だとジリ貧になっていく。

大きな会社が来ているが、だいぶ外国人作業員を入れている。地元若い人がいないのか、より安い人とするためか、分からないけれど。人口を減らさないためには、住みよいためには、産業が必要である。その産業が、農業を中心としてなかなかいかないのだけれど、産業構造や外国人雇用という総合的なこともでてくるのではと思う。

(議長)

次の世代をターゲットにして物事を考えたらどうか、ということだと思う。高齢化社会にどう対応してくるかということも重要になる。

産学官連携と書かれているけれどどうだったのか、ということとか、アンケートに出てくるのだと思う。それだけでいいのか、という話になると思うが。

地方創生じゃないけれど、総合計画を超えるような施策を打っていかなければならないという話なのだろう。

(委員)

例えば、高校受験をする子どもたちに大学時受験用の問題出すのと同じように、あまり面倒なことしてしまうと。答えるのは一般の市民なので。高齢者の方や、文字を読むのが得意でない方が多いのではないかと感じている。最初に「あなたの年齢は」という問いがあり、職業、地域、このへんはクリアできるだろう。答える側にたった住民目線でのアンケート、シンプルイズベスト、分かりやすく明確に、答えやすいアンケートを作っていたらと思う。

(委員)

取り組んだ施策の中で「主なもの」となっているが、「主なもの」が多すぎる。2行程度にまとまっていると一番見やすい。丁寧にしても分からない人は分から

ない、言葉が分からないので。例えば、交付金は何行政区に何万円とか、小田ダムパークゴルフ場の整備とか、具体的に簡潔に書くと分かりやすい。このアンケートには伝えたいことがいっぱい入っていて、これ以上いっぱいやっているのだけれども。主なものを箇条書きで 2 行くらいにまとめると良い。区長配布区長回収がより多くのアンケートが回収できると思う。

(委員)

人口が減っているのは栗原市に暮らしたくないからだ、という意見があったが、私は違うと思う。私は長年栗原市に住んでいて、栗原市が好きだし。高齢で亡くなった方もけっこういらっしゃるし、嫌だから出て行ったという理由で人口が減ったというのは違うと思う。

3,000 人が答えるとして、二十歳以上なので、まんべんなくアンケートに答えられると思う。アンケート内容が分からない方に配布したとしても、栗原市ではこんなことをやっていたのかすごいな、総合計画でこれからもっと良くするためにいろんなことをするんだなと分かるので、アンケート対象者になったことは喜ばしいことだと思う。

総合計画の冊子は各家庭に配布されているはずなので、概要では分かりにくいなと思えば冊子を見るかもしれないし、市民として先のことも考えられるので、アンケート対象者になったことで良い事もあるとポジティブに考えた。

(委員)

実績のところ赤丸、いま空欄なっているところに、数字は必要か。数字を入れたところで、どれだけの人が数字を理解するか。この数字を入れるのは、事務局としては大変な作業ではないか。広報くりはらを見ている人が、このアンケートの数字に出てくるような気がする。

(事務局)

大変な作業ではあるが、数値で示せるものは数値で示したいと考えている。

(議長)

今日の議論では、このアンケートをもらった人は大変だろうという意見が多かったので、見やすいようにするというのが基本となる。6 つの将来像ごとに分けたら書きやすいと思う。57 項目あると 3 分の 1 くらいで気持ちが萎えてしまうので。また、聞いているのは何か、ということをはっきりさせた方が良い、基本方針なのか、施策なのか、施策のゴシックの部分か具体的な部分かといったところは、もらった方ははっきりしない。たぶんゴシックのところを聞きたいのだろうけれど。具体的な部分は箇条書き等、工夫せよという話もあった。

項目数についても意見があった。このような内容を全て網羅していただき、書き手が分かりやすいアンケートにしてほしい。

4 その他

今後のスケジュールについて

次回開催日程は、平成27年3月19日（木）午後1時30分に決定。

8 閉会（午後3時30分）